

基礎調査結果

1. 基礎調査報告書

1.1 基礎調査

1.1.1 基礎調査の目的

高松市で今後予定している「生物多様性地域戦略」高松市版の策定に向け、高松市の課題を抽出するために基礎調査を実施しました。

1.1.2 基礎調査方法

高松市の様々な行政計画（総合計画、環境基本計画、緑の基本計画、都市計画マスタープラン、温暖化対策実行計画）や各種文献より高松市の概況を整理し、特徴や課題を整理しました。

なお、特徴や課題の整理にあたっては、土地利用の状況・将来の土地利用方針等を踏まえて、高松市を生物多様性に関する要素にてゾーニングを行い、ゾーンごとの整理を実施しました。

また、現地踏査を実施し、各ゾーンの代表的な地点を確認し、文献での課題整理との整合を図りました。

1.1.3 現地踏査状況

現地踏査は以下の日程で実施しました。

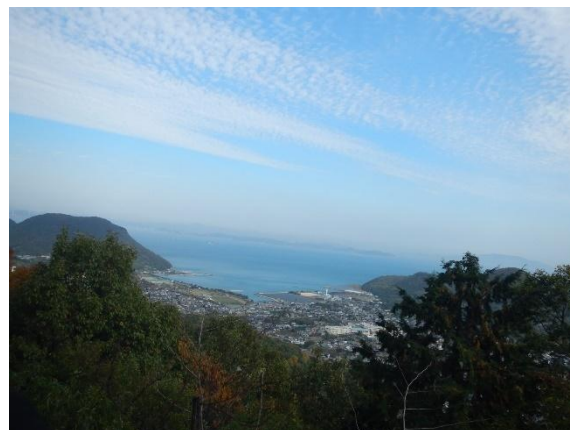
現地踏査日時：2025年11月21日 9:00～17:00

現地踏査で確認した各ゾーンの状況は次に示す通りです。

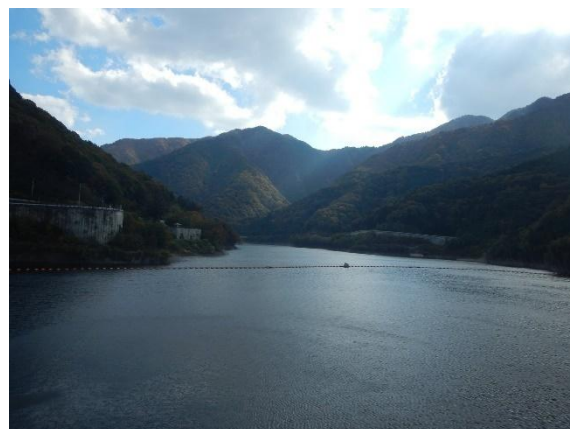
(1) 山地・森林（五色台・塩江）

山地・森林ゾーンは、多様な樹種が存在し、針葉樹ではアカマツが広葉樹ではコナラ・クヌギ（二次林の主要構成種）やツブラジイが多く見られました。タヌキやアカギツネ、アブラコウモリ等の哺乳類、ニホンヒキガエル、アカハライモリ等の両生類、マイマイカブリやミドリシジミのような昆虫やキジやヒヨドリ、サシバ等の鳥類をはじめ魚類や甲殻類、貝類、菌類等が生息できるような、森林生態系に富む環境となっていました。

①五色台エリア（五色台と五色台からの景色）

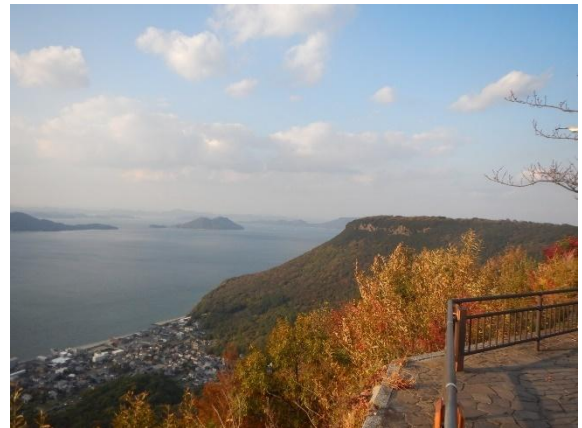


②塩江エリア



(2) 里山（屋島と屋島からの景色）

里山ゾーンは、アベマキやコナラを中心とした落葉広葉樹林が広がる中、ウバメガシといった常緑広葉樹林も存在する植生となっていました。複数の野鳥が確認されたほか、多様な生物種が生息できるような環境となっていました。一方で、イノシシについての注意喚起が掲示されていたり、かつては薪炭林であったであろう森林が放置林になっている状況が見られたり等、これまでの生態系が崩壊する可能性が示唆される状況でもありました。



(3) 海域・沿岸（本津川河口付近）

海域・沿岸ゾーンは、多様な島の景観からなる多島美を感じられる景観となっていました。海鳥を確認できるなど自然を感じられた一方で、海岸沿いに投棄されたゴミや海に浮かぶゴミが確認できるなど、海洋汚染の現状も確認できました。



(4) 河川・ため池（久米池）

河川・ため池ゾーンは、ゾーン内に河川および大小さまざまなため池が確認できました。久米池では県内唯一の自生といわれるアサザを確認したほか、両生類、昆虫類、鳥類等の生物種の生息環境となる状況であることが確認できました。一方で、スクミリングガイ（ジャンボタニシ）の卵がため池の壁面いっばいに産卵されている様子が見られるなど、外来種の脅威も確認できました。



花季を過ぎたアサザ

(5) まち（都市）（太田中央公園）

まち（都市）ゾーンでは、緑地として、街路樹や公園を多く確認できました。太田中央公園では、園内にビオトープがあり、ビオトープでは水際植物のほか、池には鯉や水生昆虫が確認できました。また、高松市ならではのオリーブが確認できる等、樹種も多様で、生態系ネットワークとしての役割を果たしていることが確認できました。



1.1.4 基礎調査結果

1) 高松市の概況

高松市は香川県の中央北部に位置し、瀬戸内海に面した平野部を中心に広がる都市です。市域の北側は瀬戸内海沿岸で、砂浜や干潟、小島（女木島・男木島など）を含み、温暖で穏やかな海洋環境が特徴です。南側は讃岐山脈の北麓に接し、丘陵や山地が市街地の背景を形成しています。代表的な地形要素として、屋島の溶岩台地や五色台の標高約 400m の丘陵、二子山などが挙げられます。

市街地は高松平野に広がり、農地やため池がモザイク状に分布しています。ため池は讃岐平野特有の水資源確保のために多数存在し、市内には数百箇所のため池が確認されています。河川では香東川や春日川が北流し、瀬戸内海へ注いでいます。

自然環境の特徴として、陸域にはかつてはアカマツ林が優占する二次林が広がっていましたが、マツ枯れの進行によりコナラ・クヌギなどが増え、それらの二次林が多く見られます。五色台や屋島、大滝山・竜王山周辺には、天然林の植生、特異な地形・地質、希少な野生生物の生息地などの優れた自然があり、特に、大滝大川県立自然公園には県下唯一のブナ林が残存します。里山景観は農地と雑木林が複合し、ため池周辺には湿性植生が広がります。水域では在来魚類や水生植物が生息し、外来魚（オオクチバスなど）の侵入が課題となっています。沿岸域には干潟や藻場が分布し、底生生物や海鳥類の生息地となっています。

都市部では中央公園や仏生山公園などの緑地が生物多様性の重要な拠点となっていますが、都市化に伴う緑地の減少やヒートアイランド現象への対応が求められています。

高松市都市計画マスタープランでは、「都市づくりの方針」において自然的土地利用等の整備方針が以下のように想定されています。

表 1.1.1 都市づくりの方針（高松市都市計画マスタープラン）

項目		概要
土地利用		・ 郊外部における豊かな田園環境の保全 ・ 市街地の背景となる山林・丘陵地の保全
都市施設	公園・緑地	・ 広域的な公園の整備 ・ 香東川緑地など緑地・緑道の整備
	河川	・ 多自然型の河川づくり
都市環境・景観形成		・ 自然の再生と共生

注) 高松市都市計画マスタープランより抜粋整理

また、土地利用の状況・将来の土地利用方針等を踏まえて、高松市を生物多様性に関する要素にてゾーニングを行いました。なお、ゾーニングは、高松市の特性に応じて、山地・森林、里山、河川・ため池、海域・沿岸、まち（都市）の5分類に分類しています。

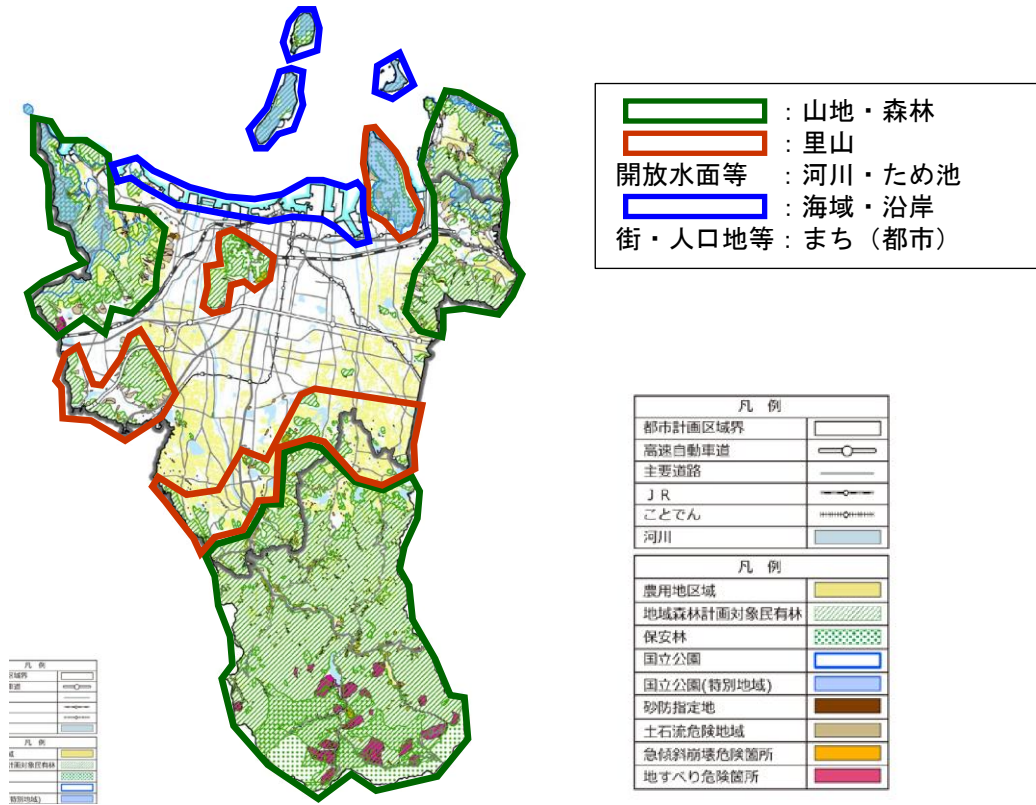


図 1.1.1 高松市のゾーニング整理例

2) ゾーンごとの特性

(1) 山地・森林

ア) 特徴

山地・森林における特徴は表 1.1.2 に示す通りです。

表 1.1.2 山地・森林における概要

項目	概要
標高	高松市には、標高 500m 未満の小規模な山地や小山が点在しています。これらには、五色台、屋島、五剣山、前田山、鷲ノ山、六ツ目山、岩清尾山、日山などが含まれます。市の南端に位置する讃岐山脈には、香川県の最高峰である竜王山系の山々があり、高松市の最高峰は竜王山（1,060m）の東北東約 500m 地点にある無名の山頂（通称：讃岐竜王山）で、標高は 1,058m です。
動物	<p>【在来種】</p> <p>イノシシ、ニホンジカ、タヌキ、キツネ、アナグマ、テン、ニホンイタチ等をはじめとした多様な動物が生息しています。</p> <p>イノシシは、讃岐山脈に生息し、近年は分布が拡大して市街地にも出没することがあります。農作物への被害も多く、瀬戸内海を泳いで渡ることもあります。ニホンジカは讃岐山脈に生息し、イノシシと同様に遊泳力があります。テンは讃岐山脈に生息しています。</p> <p>タヌキ、キツネ、アナグマは低地から高地まで広く分布し、市街地でも見られます。ニホンイタチはかつて広く見られましたが、チョウセンイタチに追いやられ、現在は屋島と讃岐山脈で確認されています。</p> <p>【外来種】</p> <p>チョウセンイタチ、アライグマ、ハクビシン等が生息しています。</p> <p>アライグマは特定外来生物に指定されており、農作物の食害や人家の屋根裏での繁殖が報告されています。高松市南部や庵治町で捕獲されています。アライグマ、ハクビシンも低地から高地まで広く分布し、市街地でも見られます。</p>
植物	<p>【在来種】</p> <p>樹木類は、アカマツ、コナラ・クヌギ（二次林の主要構成種）、ツブラジイ（暖地性常緑広葉樹）が多く見られます。低木・草本類は、ツツジ類、ヤマツツジ、ネジキ、リョウブ、また林床のシダ類（ベニシダ、イヌワラビ）が多く見られます。</p> <p>【外来種】</p> <p>木本類は、ニセアカシア（伐採跡地や荒廃地に侵入）、草本類は、オオキンケイギク（道路沿いや林縁で拡大）、セイタカアワダチソウ（荒地・林縁に繁殖）が多く見られます。</p>

イ) 課題

山地・森林における課題は表 1.1.3 に示す通りです。

表 1.1.3 山地・森林における課題

課題	概要
地球環境の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○温暖化の影響 平均気温上昇に伴う植生帯の変化（アカマツ林の衰退、暖地性常緑樹の拡大）。樹木の生理ストレス（乾燥・高温による枯死率増加）。極端気象（集中豪雨・台風）による土壌流出・斜面崩壊。 ○影響の連鎖 林床環境の変化 → 昆虫・鳥類の種組成シフト。気候変動で病害虫（マツ材線虫病など）の発生リスク増大。
人間活動の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○森林管理不足 間伐・更新の停滞 → 林冠閉鎖による光環境悪化。放置林での病害虫蔓延（松枯れ、カシノナガキクイムシ被害）。 ○担い手不足 高齢化・後継者不在で山地・森林管理が困難。公的支援や民間連携の仕組みが未整備。 ○利用圧の偏り 登山・観光集中による踏圧・外来種侵入。一方で奥山域は管理放棄で荒廃。
生態系の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○外来種侵入 林床にオオキンケイギク、セイタカアワダチソウなどが定着。ニセアカシアなど外来木本が伐採跡地に侵入。 ○在来種の衰退 オンツツジ群落など希少群落の縮小。シダ類や野生ラン科植物の減少。 ○生態系ネットワークの分断 都市化・道路整備で緑地の連続性が低下 → 野生動物の移動阻害。

(2) 里山

ア) 特徴

里山における特徴は表 1.1.4 に示す通りです。

表 1.1.4 里山における概要

項目	概要
特徴	<p>高松市の里山は主に低地から丘陵地にかけて広がり、農地や雑木林、ため池などがモザイク状に分布しています。代表的なものには、日山やその周辺の高松クレーター、屋島、石清尾山塊、公湊森林公園などがあり、標高は 200～500m 程度となっています。これらの里山は都市と自然の中間地点にあり、二次林や農地と混在し、人の利用と自然の相互作用によって、多様な生物が生息するエリアとなっています。</p>
動物	<p>【在来種】 ミサゴ、キジ、カワセミ、ニホンアマガエル、トノサマガエル、シマヘビ、タヌキ、アナグマ、ノウサギなど多様な動物が生息しています。 ニホンイタチはかつて広く見られましたが、チョウセンイタチに追いやられ、現在は屋島で確認されています。</p> <p>【外来種】 チョウセンイタチ、アライグマ、ウシガエル等が生息しています。 アライグマは特定外来生物に指定されており、農作物の食害や人家の屋根裏での繁殖が報告されています。ハクビシンも低地から高地まで広く分布し、市街地でも見られます。</p>
植物	<p>【在来種】 樹木類は、コナラ（雑木林の主要構成種）、クヌギ、ヤマザクラ、アベマキ（暖温帯の里山に多い）、アカマツ、ツブラジイが多く見られます。低木・草本類は、ススキ、ヨシ、ワラビ（林床や半日陰地）、ネジキ、リョウブなどが見られます。</p> <p>【外来種】 オオキンケイギク（道路沿いや林縁で拡大）、セイタカアワダチソウ（荒地・林縁に繁殖）、クズ（放棄地で繁茂）が多く見られます。</p>

イ) 課題

里山における課題は表 1.1.5 に示す通りです。

表 1.1.5 里山における課題

課題	概要
地球環境の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○異常気象の影響 異常気象による集中豪雨が土砂崩れや洪水のリスクを高め、里山の安定した環境維持に影響。 ○温暖化の影響 温暖化の影響でササやタケの繁茂が拡大し、里山に侵入 → 多様な植物・昆虫・野鳥が減少。異常気象による集中豪雨が土砂崩れや洪水のリスクを高め、里山の安定した環境維持に影響。特に放置竹林では、光環境が変化しほかの植物の定着を妨げ、里山の多様性に影響。 温暖化により病害虫（マツ材線虫病など）の活発化・拡大。
人間活動の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○里山管理の担い手不足 林業・農業・間伐などの里山管理を担う人材が不足 → 管理された環境の減少により動植物の生育環境が変化 → 生物多様性の損失が進行。 林業・農業・間伐などの里山管理を担う人材が不足 → 管理された環境の減少により水源涵養機能や土砂災害防止機能の低下など → 地域の防災や存続に関わるリスク増大。
生態系の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○害獣の増加 人里との境界が曖昧になり、イノシシなどが人里に出没 ○害獣による被害 シカやイノシシなどの害獣が増加 → 下層草本の食害による植生の消失・荒廃が進行 → 生態系バランスの崩壊 ○在来種の多様性の低下 下刈りや薪炭林利用低下により、二次林の遷移が進行 → シラ・カシ類常緑樹林や竹林の優占化、植生・景観の単一化が進行 → 里山特有種の減少。 ○生態系ネットワークの分断 農地と雑木林の連続性が低下し、生息域が小さくなることで弱い個体や種が淘汰 → 生物多様性が低下。また、個々の生態系が孤立し食物連鎖のバランスが崩れ特定の生物（外来種含む）の増減につながる。

(3) 海域・沿岸

ア) 特徴

海域・沿岸における特徴は表 1.1.6 に示す通りです。

表 1.1.6 海域・沿岸における概要

項目	概要
特徴	<p>高松市の海域は瀬戸内海東部に位置し、多島と急深・浅海混在の特徴的な地形で、浅海域には藻場が多く形成されています。閉鎖性内海で、海峡を通る潮流が速く、栄養塩が循環しやすく、多種多様な魚種が生息する環境に恵まれています。海岸線の総延長は約 738 kmあり、天然の良港や砂浜海岸、岩礁帯を含む複雑な海岸地形が特徴です。</p> <p>特色のある海岸景勝地として、屋島、女木島、庵治半島などがあげられます。河川や埋立により地形が変化しつつも生き物の生息域を維持しています。</p>
動物	<p>【在来種】 メバル類(シロメバル・クロメバル)(藻場で幼魚期を過ごす)、ウミタナゴ(アマモ場で甲殻類を捕食)、クロダイ(幼魚期はアマモ場依存)、サルエビ類、アサリなどが見られます。</p> <p>【外来種】 ブルーギル(河口・汽水域に侵入、稚魚食害)、オオクチバス(河川・汽水域で定着、生態系に影響)、アメリカザリガニ(河川・河口域に侵入、生態系に影響)、スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)(河川・河口域に侵入)、セアカゴケグモ(港湾・沿岸施設で定着、毒性あり)などが見られます。</p>
植物	<p>【在来種】 海藻類として、アマモ(浅瀬の砂泥底に群生し、魚介類の産卵・育成場)、ホンダワラ類(ガラモ)(岩礁域に藻場を形成、稚魚の隠れ場)が見られます。</p> <p>【外来種】 ホテイアオイ(河川や汽水域で繁殖、水面を覆って光を遮断、生態系に影響)、オオフサモ(水草で、河口や湿地に侵入し、在来水草を駆逐)、セイタカアワダチソウ(海岸近くの空き地や干拓地で繁殖、在来植物群を置換)などが見られます。</p>

イ) 課題

海域・沿岸における課題は表 1.1.7 に示す通りです。

表 1.1.7 海域・沿岸における課題

課題	概要
地球環境の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○温暖化の影響 温暖化により、海水温（特に秋季から冬季）が上昇し、アマモ場やガラモ場などが減少し、多くの海洋生物の産卵・育成生のある藻場が減少し、生態系へ大きく影響 ○異常気象の影響。 高潮・台風により干潟が消失し、干潟特有種の生育環境が減少
人間活動の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○水質汚濁と貧栄養化 生活排水や産業排水、農業廃水による水質汚濁。また産業排水による富栄養化の対策を行い水質が大幅に改善されたことによる貧栄養化（窒素、リンなどの不足）による循環バランスの崩壊。 ○海洋ゴミの発生と蓄積 閉鎖性海域であるため、陸からの流入や海域で発生したごみが蓄積しやすく、環境を汚染。海洋ゴミの多くがビニール袋などのプラスチック類であり、生物の誤飲やマイクロプラスチックの原因になっている。 ○自然海岸の減少 干拓や埋立により自然海岸が大幅に減少。人工護岸の割合も全国平均に比べ高く、本来の沿岸生態系や生物の生息・生育環境が減少。
生態系の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○藻場の消失 温暖化の影響や、人間活動（沿岸開発）等により、藻場が減少 → 魚類をはじめとし、生態系バランスの崩壊に繋がる。 ○外来種侵入 外来種が在来種を捕食し、個体数を減少。限られた餌と生息環境を在来種と奪い合い、在来種を駆逐。近縁の在来種と交配することで固有遺伝子が失われる「遺伝子汚染」などが生態系バランスの崩壊を引き起こす。

(4) 河川・ため池

ア) 特徴

河川・ため池における特徴は表 1.1.8 に示す通りです。

表 1.1.8 河川・ため池における概要

項目	概要
特徴	高松市は主として香東川の流域にあり、市の東部は新川及び春日川の流域に、西部は本津川の流域となっています。河川の多くが讃岐山脈からの短く急勾配で、大雨時以外は水量が少なめになっています。一方ため池については、高松市内に 3000 以上の大小ため池が存在します。水不足を補うための農業用水源として、また洪水調整・土砂災害防止、さらには生物多様性・親水空間として数多く作られており、水生植物や魚類、両生類にとって重要な生息環境であるに加え、渡り鳥の休息地にもなっています。
動物	【在来種】 ギンブナ、コイ、オイカワ、ミナミメダカ、ミナミヌマエビ、ニホンアマガエル、トノサマガエル、アカハライモリ、ゲンゴロウ類、カワセミ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、ドブ貝、マルタニシが見られます。 【外来種】 ブルーギル（ため池や小川で稚魚や在来魚を捕食）、オオクチバス、タイリクバラタナゴ（外来タナゴ・コイ科などが混入し遺伝的交雑）、アメリカザリガニ（植生を破壊）、ウシガエル、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）などが見られます。
植物	【在来種】 ヤナギモ、エビモ、ガガブタ、イトモ、アサザ、オニバスなどが自生しています。 【外来種】 ホテイアオイ（水面を覆って光を遮断、生態系に影響、春日川で夏季に著しく繁茂）、オオフサモ（水草で、河口や湿地に侵入し、在来水草を駆逐）、セイタカアワダチソウ（海岸近くの空き地や干拓地で繁殖、在来植物群を置換）などが見られます。

イ) 課題

河川・ため池における課題は表 1.1.9 に示す通りです。

表 1.1.9 河川・ため池における課題

課題	概要
地球環境の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○異常気象の影響 豪雨による土砂流出や流速加速が河川環境を破壊、ため池の決壊リスクを高め、増水により外来種が拡散。 降水パターンの変化（降雨量の変化、集中豪雨の増加等）でため池の水量維持が難化、渇水による水生生物の生息環境が悪化。 ○温暖化の影響 温暖化により水温が上昇することで、在来魚類や両生類の生育に悪影響を与え、在来種の繁殖活動を阻害。
人間活動の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○自然環境減少 護岸工事や農地開発等で河川の自然な岸辺が失われ、生物の隠れ家や移動経路が減少。 ○管理不足 人口減少や農業従事者の高齢化、減少によりため池の水を抜く「かいぼり」といった伝統的な管理が行き届かず、水質の悪化や、外来植物の繁茂により在来種が減少。 ○水質汚染 生活排水や農薬、ゴミの投棄などによる水質汚染が発生し、水生生物に悪影響を与える。
生態系の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○外来種侵入 外来種が在来種を捕食し個体数を減少、限られた餌や生息環境を在来種と奪い合い在来種を駆逐などにより生態系バランスが崩壊。 ホテイアオイの繁茂により光の遮断と水中の酸素不足が発生。これにより水生生物の生育環境が悪化。 ○藻類繁殖 有機物が堆積することによるため池の富栄養化によって植物プランクトン（藻類）が異常繁殖し、生態系バランスが崩壊。

(5) まち（都市）

ア) 特徴

まち（都市）における特徴は表 1.1.10 に示す通りです。

表 1.1.10 まち（都市）における概要

項目	概要
特徴	まちは平野部を中心に広がっており、J R 高松駅周辺から高松中央商店街を中心部とし、大小さまざまな商店、ビル、ホテル、病院、学校、各種公共施設等からなり、緑地は公園や街路樹に限定されます。代表的な公園には、栗林公園や仏生山公園があります。ビオトープが整備されている環境もあり、太田中央公園もその一つです。これらの緑地は、ヒートアイランドの緩和、都市景観形成、生態系ネットワークの一部を担っています。
動物	【在来種】 スズメ（都市環境に適応）、カラス、アオサギ、ツバメ（建物周辺）、ムクドリ（特に都市部で急増し、ねぐらを形成）、タヌキ（都市近郊の緑地）、アナグマ、アゲハチョウ、モンシロチョウ、カブトムシ、セミ類などが見られます。 【外来種】 ドバト（都市部に大量に生息、餌付けによる増加）、アライグマ（都市周辺で確認、特定外来生物）、ハクビシン（都市近郊の緑地に侵入）、クマネズミ（都市部の建物内で繁殖）などが見られます。
植物	【在来種】 クロマツ（市の木）、ケヤキ（街路樹として多い）、イチョウ、ソメイヨシノ、ツツジ（市の花）、ススキ、ヨモギ、カタバミなどが見られます。 【外来種】 セイヨウタンポポ（道路沿いや空き地に広く分布）、オオキンケイギク（道路沿いや造成地で繁殖）、ヒメジョオンなどが見られます。

イ) 課題

まち（都市）における課題は表 1.1.11 に示す通りです。

表 1.1.11 まち（都市）における課題

課題	概要
地球環境の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒートアイランド現象 都市化によりヒートアイランド現象が加速し、都市生態系が変化し在来種が減少。また、ヒートアイランド現象により猛暑日・熱帯夜が増加し、市民の健康被害のリスクが上昇。 ○異常気象の影響 集中豪雨による都市河川の氾濫リスクの増加、緑地の浸水被害。
人間活動の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○緑地の減少 都市化により、緑地が減少することで身近な野生生物が減少、緑地の減少に伴い、生息地が分断されることで生物の移動が妨げられ、個体群の孤立を招き、遺伝的多様性が低下につながる。 ○外来種管理不足 生活や都市部の生態系を脅かす、外来種（ドバト、アライグマ、ハクビシン等）が増加。
生態系の変化による課題	<ul style="list-style-type: none"> ○在来種の衰退 都市公園で単一樹種化がすすみ、昆虫や鳥類の多様性が低下。 ○外来種侵入 外来種（セイヨウタンポポやオオキンケイギク等）が空地や道路沿いで繁殖。セアカゴケグモも定着。

3) 高松市の環境特性における課題抽出

各ゾーン（山地・森林、里山、海域・沿岸、河川・ため池、まち）の継続により、高松市内における環境特性にも以下のような課題に繋がる懸念されます。

- 気候変動と管理放棄が複合し、森林構造・里山構造・種多様性・景観が同時に劣化。
- 外来種の侵入は管理不足と連動し、在来群落の回復を阻害。
- 生態系サービス※（防災・水源涵養・レクリエーション）の低下が都市環境にも影響。

※生態系が人間社会にもたらす様々な恵みや機能の総称であり、次の4つに分類される。

- ①供給サービス：食料、飲料水、木材、燃料、医薬品、繊維など人間生活に重要な資源を供給
- ②調整サービス：森林などの自然による気候調節や水質浄化
- ③文化的サービス：精神的充足、美的な楽しみなどレクリエーションの機会の提供
- ④基盤サービス：光合成や土壌形成、土壌循環など①～③の供給を支えるサービス

1.1.5 参考文献

本調査に使用した文献は以下の通りです。

- 生物多様性地域戦略策定の手引き（令和5年度改訂版）（令和5年5月、環境省）
- 第7次高松市総合計画（令和6年3月、高松市）
- 高松市環境基本計画（令和6年3月、高松市）
- 第2次高松市緑の基本計画（改定）（令和2年3月、高松市）
- 高松市都市計画マスタープラン（令和7年6月改定、高松市）
- 高松市地球温暖化対策実行計画（令和7年3月改定、高松市）
- 高松市環境白書令和6年度版（令和7年1月、高松市）
- 香川県レッドデータブック2021（2021年、香川県）
- 環境省レッドリスト2020（令和2年、環境省）
- 環境省第5次レッドリスト（令和7年、環境省）
- 香川の自然ガイドマップシリーズ（香川県）

1.2 生物保全団体等へのヒアリング

1.2.1 ヒアリング目的

高松市生物多様性地域戦略を「将来に向けた生物の多様性の保存や、持続可能な利用に関する基礎的な計画」とするため、高松市内で環境活動を実施している団体へのヒアリングを実施し、高松市の生物多様性の現状、課題を整理しました。

1.2.2 ヒアリングの概要

ヒアリングは以下の概要にて実施しました。

表 1.12 ヒアリング概要

項目	内容
ヒアリング方法	・高松市環境総務課より事前連絡 ・メールにて説明文、ヒアリング項目を送付 ・メールの返送にて回答
ヒアリング日時	メール送付日：12/25, 12/26, 1/9 メール回答期限：1/16
ヒアリング実施数	合計4団体

1.2.3 ヒアリング項目

ヒアリング項目は表 1.13 に示す通りとしました。

表 1.13 ヒアリング項目

設問	内容
Q1	高松市の生物多様性の特徴や強みは何だと思えますか。
Q2-1	近年、種の分布や生態系に変化を感じることはありますか。要因を思いつく場合は要因についても記載ください。
Q2-2	高松市にはさまざまな動植物が生息・生育しています。高松市内において次の身近な生きものについて当てはまる番号それぞれ一つに○をつけてください。
Q2-3	高松市にはさまざまな絶滅が危惧される種が生息・生育しています。次の生きものについて当てはまる番号それぞれ一つに○をつけてください。
Q2-4	高松市にはさまざまな外来生物が生息・生育しています。次の生きものについて当てはまる番号それぞれ一つに○をつけてください。
Q2-5	現場活動において感じる「回復傾向にある種」と「危機的な状況にある種」があれば教えてください。
Q3	高松市の生物多様性の保全において、現在最も深刻な課題は何だと考えますか。
Q4	人間活動（農業、都市開発、観光など）が生態系に与えている影響について、どのように評価されていますか。
Q5	10年前と比較して高松市の環境はどのように変化していると感じますか。また、今後10年で、高松市の生物多様性はどのように変化すると予測しますか。
Q6	気候変動や外来種が、高松市の環境に与える影響について、どのような懸念事項がありますか。
Q7	貴団体の活動内容のうち、生物多様性の保全に効果的だと感じる活動はありますか。
Q8	地域住民や行政が取り組むべき優先事項は何だと思えますか。
Q9	市民に活動に参加してもらうための、効果的な仕掛けがあれば教えてください。

Q1.高松市の生物多様性の特徴や強みは何だと思いますか。

- <A 団体>
- ①高松市は南方には讃岐山脈を有し、森林はヒノキ等の人工林を有する奥山から落葉広葉樹等の里山へと連なり、香東川等の河川が南北に流れ、ため池が点在する讃岐平野には田園地帯が広がっている。
 - ②河川は北方の瀬戸内海に流れ、海岸線は都市部の人工物による護岸や港湾のみならず、長大な自然海岸を有するとともに、男木島・女木島等の島々を有している。
 - ③また、瀬戸内海に面して、屋島や五色台、庵治などに山塊・森林を有するとともに、市街地に峰山・紫雲山など、身近な自然が存在する。
 - ④このように、市民の生活圏に近い場所に様々な自然環境を有しており、多様な生態系があることが強みであると考えます。

- =====
<B 団体>
- ①高松市の生物多様性の特徴は、海・川・里・山・都市が近接して存在している点にあると考える。瀬戸内海に面し、干潟や藻場、沿岸地域の生態系がみられる一方、市街地周辺にはため池や農地、低山帯の里山が広がっている。特にため池は、水生昆虫や魚類、鳥類など多様な生物の生息地となっており、高松市ならではの自然資源である。また、都市部でも公園や緑地が点在し、人々の生活と自然が身近に結びついている点も強みである。これらの多様な環境が比較的狭い範囲に存在することが、生物多様性の基盤となっている。
 - ②栗林公園など自然及び生物に溢れた場所があるところ。

- =====
<C 団体>
- ①高松市は、日本一小さな県にある都市ですが、南に讃岐山脈、北側に瀬戸内海という穏やかな海に挟まれ、海・街・平野・山地などがコンパクトに纏まっており、それぞれの環境に住む多様な生物が生息し、そこに人の暮らしが密接に関わっていると感じます。特に、ため池が多いため、水生生物が生きる環境が確保されていると感じます。
 - ②このような特徴から、人が多様な生物に触れる機会が多いことが強みであると思います。

- =====
<D 団体>
- ①市南部には高い山があり、そこより流れる香東川が市の中央を流れ瀬戸内海に注いでいる。高地から海までの様々な環境は、多様な動植物が生息できる条件が整っている。

ヒアリング結果まとめ

<高松市の生物多様性の強み>

- ・海・川・里・山・都市が近接して存在し、身近に様々な自然環境を有し、多様な生態系を有する点。
- ・南部の山から瀬戸内海まで、里山、都市部へと河川が流れ、多様な動植物が生息できる環境が整う。
- ・特に水生昆虫や魚類、鳥類など多様な生物の生息地となっている“ため池”は高松市ならではの自然環境。
- ・人が多様な生物に触れる機会が多いこと。

Q2-1.近年、種の分布や生態系に変化を感じることはありますか。要因を思いつく場合は要因についても記載ください。

<A 団体> ①長期的な傾向では、生活様式の変化で人の手が入らなくなった中山間地域で森林や竹林が放置されたことに伴い、里山やため池で見られていた昆虫等が見られなくなるなど、地球温暖化を要因とする気候の変化に伴い、植物季節（例えばソメイヨシノの開花日）が早くなっていると感じる。ただ、これは長期的に考えた時に感じる程度であり、年毎の気候の変動が大きいため、毎年植物季節が早くなっていると感じるわけではないし、毎年里山やため池の甲虫がいなくなっていると感じているわけではない。

<B 団体> ①近年、身近な自然の中で生きものの種類や数が減っていると感じることもある。例えば、川や水路で見られていたメダカや水生昆虫が減少し、代わりに外来種が目立つようになった。また、夏に鳴いていたセミの種類や数が偏ってきたようにも感じる。要因としては、都市開発による生息地の減少、水路のコンクリート化、水質の悪化、農薬や生活排水の影響が考えられる。さらに、気候変動による猛暑や豪雨の増加も、生物の生息環境に影響を与えていると考えられる。これら複数の要因が重なり、生態系のバランスが変化していると感じる。

<C 団体> ①2018 年度より 8 年間、植物調査を行った中で、以前より花期が長くなった植物が複数見られます。温暖化の影響で冬でも温かい日が多いためだと思われます。ため池で毎年黄色い花を一面に咲かせていた「アサザ」が、数年前に見られなくなりました。原因については分かりません。
②外来種の種が入り、年々繁殖エリアを拡大しています。要因は人の移動による種の持ち込みと、繁殖力の強さだと思われます。
③ナラ枯れや破竹の枯れが拡大進行しています。里山から人が離れ荒廃して、森林の木が生長しすぎていることが原因だと思われます。

<D 団体> ①顕著な例として、ホタルの生息数が増えている。要因として水質改善（農薬、生活排水の減少）が進んだ為と思われる。
②種の種類が減少傾向にある。高齢化、過疎化により森林が荒廃し、また遊休耕作が増えて保全活動がなされない為、繁殖能力の高い種が増え、在来種が減少傾向にある。

ヒアリング結果まとめ

<生態系変化の内容・要因>

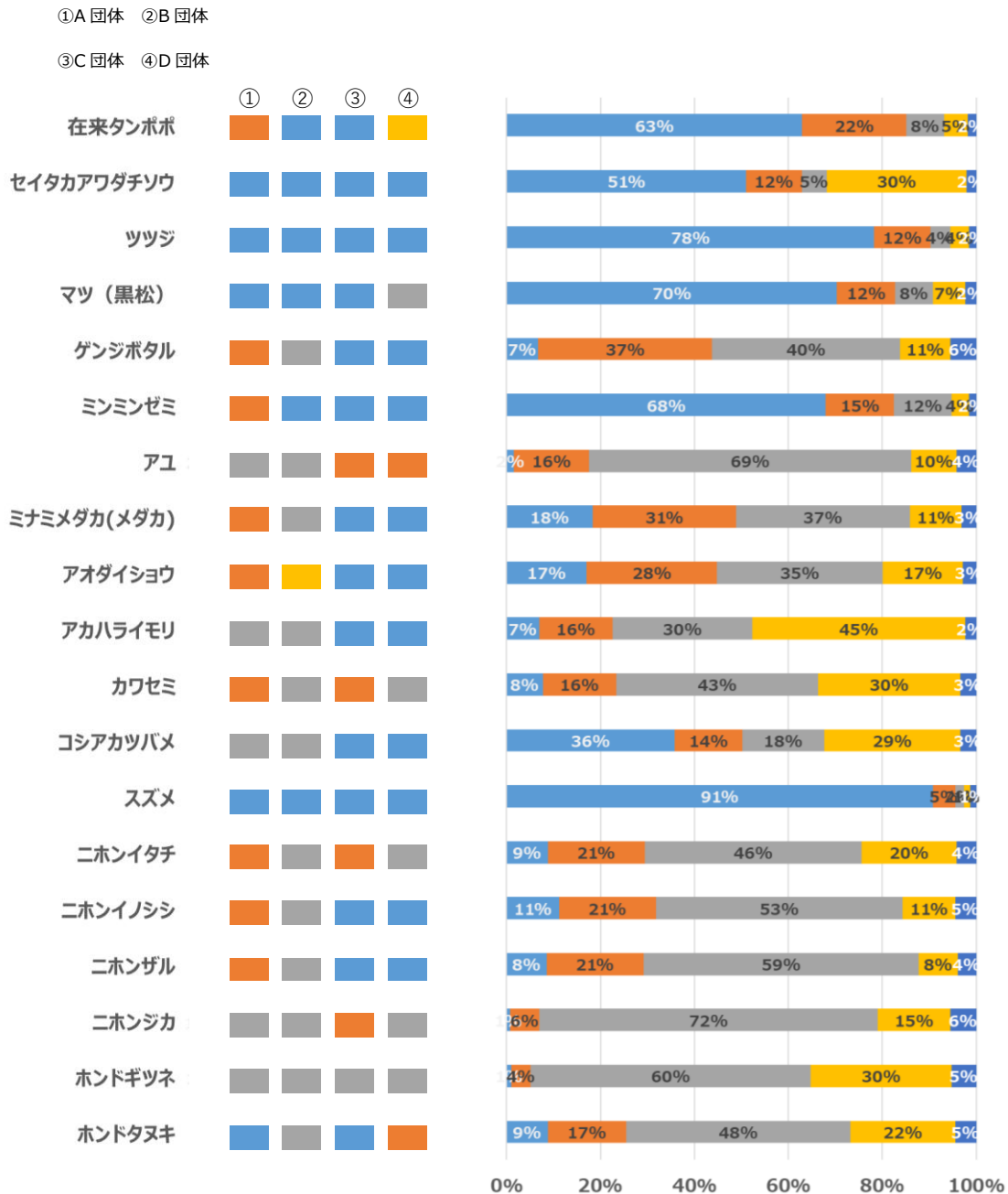
- ・生活様式の変化による森林や竹林の放置、荒廃。都市開発による生物の生息環境の減少。
- ・気候変動による生物種の変化
- ・人間活動、気候変動による外来種の繁殖。
- ・水質改善が行われたことによる、希少種（ホタル）の復活傾向。

Q2-2.高松市にはさまざまな動植物が生息・生育しています。高松市内において次の身近な生きものについて当てはまる番号それぞれ一つに○をつけてください。

- この1年間に高松市内の自然の中で直接見たり、鳴き声を聞いたりしたことがある
- この1年以内には高松市内の自然の中で見ていないが、過去に見たことがある
- 高松市内の自然の中で見たことはないが、姿を思い浮かべることができる
- 知らない
- 無回答

【生物保全団体等の回答】

【参考：市民アンケート結果】



ヒアリング結果まとめ

・高松市内の自然のなかで見たことがない種として半数以上あがったものには、アユ、アカハライモリ、カワセミ、コシアカツバメ、ニホンイタチ、ニホンジカ、ホンドギツネ。ホンドギツネに関しては全団体において、高松市内の自然で見たことがないとの回答となりました。

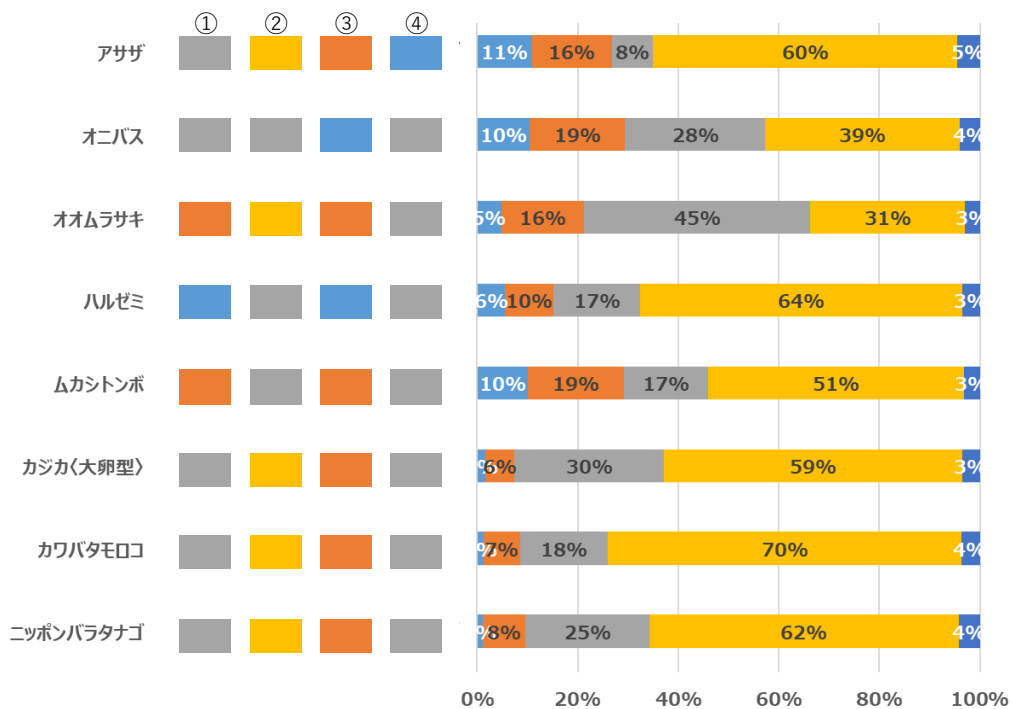
Q2-3.高松市にはさまざまな絶滅が危惧される種が生息・生育しています。次の生きものについて当てはまる番号それぞれ一つに○をつけてください。

- この1年間に高松市内の自然の中で直接見たり、鳴き声を聞いたりしたことがある
- この1年以内には高松市内の自然の中で見ていないが、過去に見たことがある
- 名前だけは聞いたことがある
- 知らない
- 無回答

【生物保全団体等の回答】

【参考：市民アンケート回答】

- ①A 団体 ②B 団体
③C 団体 ④D 団体



ヒアリング結果まとめ

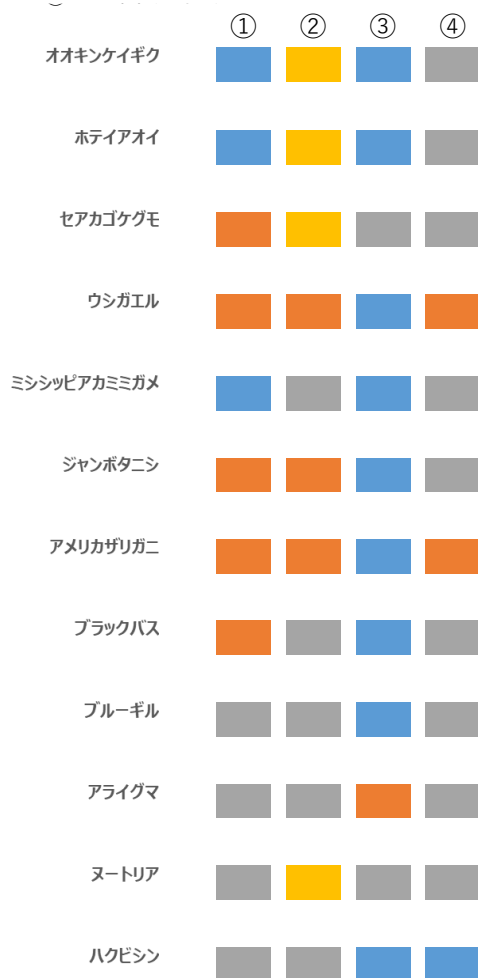
- ・生物保全団体においても、3/4 団体がオニバスを実際に見たことが無く、2/4 団体がハルゼミ、ムカシトンボ、カジカ（大型卵）、カワバタモロコ、ニッポンバラタナゴを見たことが無いという結果となりました。

Q2-4.高松市にはさまざまな外来生物が生息・生育しています。次の生きものについて当てはまる番号それぞれ一つに○をつけてください。

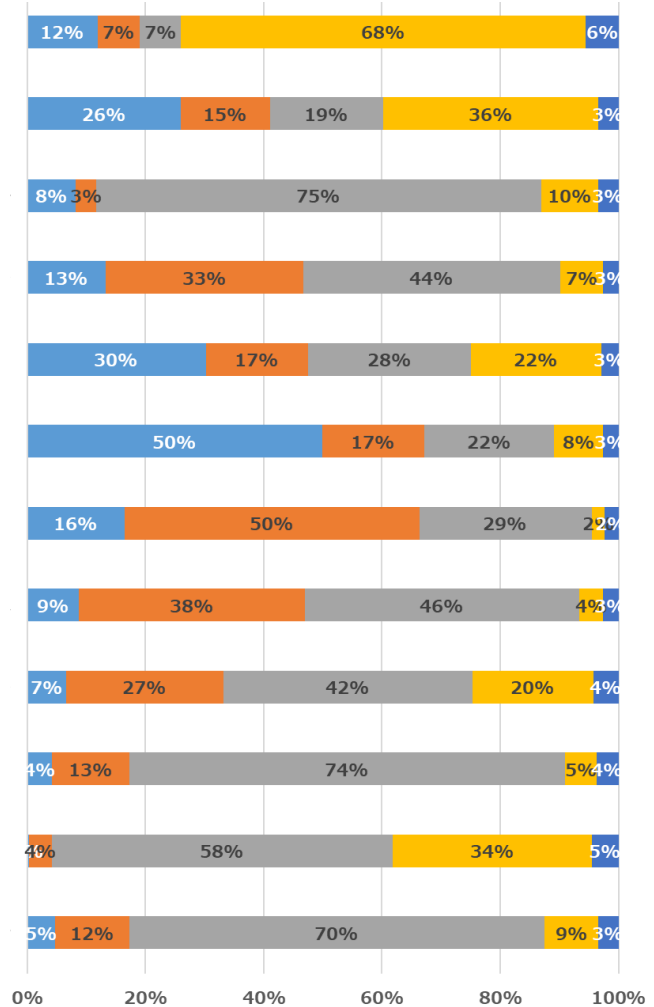
- この1年間で高松市内の自然の中で実際に見たことがある
- この1年以内には高松市内の自然の中で見ていないが、過去に見たことがある
- 名前だけは聞いたことがある
- 知らない
- 無回答

【生物保全団体等の回答】

- ①A 団体 ②B 団体
③C 団体 ④D 団体



【参考：市民アンケート回答】



ヒアリング結果まとめ

- ・いずれかの団体で、「この1年で高松市内で実際に見たことがある」との回答となった種は、オオキンケイギク、ホテイアオイ、ウシガエル、ミシシippアカミミガメ、ジャンボタニシ、アメリカザリガニ、ブラックバス、ブルーギル、ハクビシンがあげられました。

Q2-5.現場活動において感じる「回復傾向にある種」と「危機的な状況にある種」があれば教えてください。

①ホンドタヌキは傷病野生鳥獣として保護されることが増えており、回復傾向にあると考える。

<A 団体> ②オオキンケイギク、ホテイアオイ、セアカゴケグモ、ミシシippアカミミガメは日常的に見られ、未だ生息・生育域が広がっていると感じており、危機的な状況にあると感じる。

=====
<B 団体> 特になし。

=====
<C 団体> ①「危機的な状況にある種」 アサザ

=====
<D 団体> 無回答

ヒアリング結果まとめ

<回復傾向にある種>

- ・ホンドタヌキ保護の増加。

<危機的な状況にある種>

- ・外来種（オオキンケイギク、ホテイアオイ、セアカゴケグモ、ミシシippアカミミガメ）の繁茂。
- ・ため池で確認されていた「アサザ」が数年前から見られなくなったこと。

Q3.高松市の生物多様性の保全において、現在最も深刻な課題は何だと考えますか。

<A 団体> ①前述の通り、高松市の生物多様性は様々な地域で多様なものであることから、保全のための課題も一概には言えないと思うが、最も深刻なのは、希少種の絶滅の危険、気候変動による在来種の減と外来種の増と考える。

=====
<B 団体> ①最も深刻な課題は、生息地の分断と劣化であると考え。都市開発や農地管理の変化により生物が移動・繁殖できる環境が失われる。

②セアカゴケグモなど外来種の問題。

=====
<C 団体> ①「生物多様性の保全」という言葉はよく聞かれますが、実際に保全活動を行っている団体や個人は少ないまたはそもそもの保全の意味と意義への理解不足・興味関心の薄さとそれによる軽薄な行動が問題である感じています。

②高松市の自然環境がどのように変化しているか。などの情報が少なく、具体的に何をどう保全していけばいいのか分からないこと、が課題だと思われます。

=====
<D 団体> ①手入れ不足による森林、田畑の荒廃

ヒアリング結果まとめ

<深刻な課題_生態系の状況>

- ・希少種絶滅の危機。
- ・気候変動による在来種の減少、外来種（セアカゴケグモ等危険生物含む）の増加。
- ・生息地の分断と劣化による多様性の変化・減少。
- ・森林、田畑の荒廃。

<深刻な課題_市民の意識>

- ・「生物多様性の保全」の意味と意義への理解不足、興味関心の薄さ。
- ・高松市の自然環境に関する情報不足。
- ・具体的な行動が不明確なこと。

Q4.人間活動（農業、都市開発、観光など）が生態系に与えている影響について、どのように評価されていますか。

<A 団体>

①農林業では、経営活動において、森林では一斉伐採ではなく間伐が主体になるなど、生態系への影響は低減していると考えられるものの、農業での土地改良事業では土壌の移動による外来種の生息・生育地域が拡大することなどが危惧される。

②また、人の手が入らなくなったことによる里山林の藪化や竹林の拡大・荒廃、休耕田の山林化などにより、生態系の多様性が低下していると考えられる。

③近年の景気低迷により、都市開発による影響は大きくないと考えるが、一方で山林やため池等に新たに設置された大規模な太陽光発電施設が生態系に与える影響は小さくないと感じている。

④観光地での評価は知見が無いが、三豊市の父母ヶ浜が環境省の自然共生サイトに認定されたことから、観光地でのオーバーユース問題対策と自然環境保全是重要であると考ええる。

<B 団体>

①農業や都市開発、観光は地域経済を支える一方で、水質悪化や自然環境の改変を引き起こしている。生態系への影響を考慮した持続可能な利用が必要である。

②都市開発など様々な開発が進むことで生態系にダメージを与えてしまっていることを考えると私たち人間は便利になる一方、生態系にとってはあまり良くないことであると考ええる。

<C 団体>

①農業：ため池や水路のコンクリート化が進み、植生が失われることで、住処やエサが減った昆虫や鳥類など、それに依存していた生物が減少。農薬や化学肥料の使用による生物の減少。

②都市開発：宅地開発や道路整備（乱開発）が進み、田畑や自然環境が失われ、生物多様性が減少。

③観光：富士山などともと生物が住んでいた所に絶え間なく大勢の人間が来ると、住んでいた生物がいなくなる、またはその場所に寄り付かなくなる。なので、生物多様性や環境保全の視点で行政が規制を掛ける必要がある。

<D 団体>

①都市開発、観光による影響は限定的と思われるが、農業の耕作が減少することにより水利用が減ることによって河川、水路が管理されていない。この事によって画一的な動植物分布が広がっている。

ヒアリング結果まとめ

<人間活動が与える影響>

- ・土壌の移動による、外来種の生息・生育地域の拡大。
- ・里山林の藪化や竹林の拡大・荒廃、休耕田の山林化。
- ・大規模太陽光発電の生態系に与える影響、都市開発による生物多様性の減少。
- ・観光地のオーバーユース問題が与える自然環境への影響。
- ・ため池や水路のコンクリート化による水生生物への影響。
- ・生物多様性や環境保全の視点で行政が規制を設ける必要性。

Q5.10 年前と比較して高松市の環境はどのように変化していると感じますか。また、今後 10 年で、高松市の生物多様性はどのように変化すると予測しますか。

- <A 団体> ①10 年前と比較して気候の変動等はあるものの、高松市の環境が大きく変化しているとは感じない。
②今後 10 年を考えると、このまま何も対策を講じなければ、森林や里山、農地等では生物多様性が低下し、在来種の減と外来種の増が進行すると考える。
- =====
<B 団体> ①高松に住んで 10 年が経っていないため分からない。
- =====
<C 団体> ①温暖化と、開発により自然環境が減少していると思います。
②今後、人間活動優先の開発を続けることで、生物多様性はますます失われると思います。
- =====
<D 団体> ①水源地である上流部の森林、田畑の荒廃が進んでいる。多様な動植物の生息が限定され種の減少に繋がる。

ヒアリング結果のまとめ

<高松市の環境について 10 年前との比較、10 年後の予測>

- ・大きな変化は感じられないという団体がいる一方、温暖化と開発により自然環境の減少、水源地である上流部の森林や田畑の荒廃が進んでいるという回答の団体も複数。
- ・対策を講じず、人間活動優先の開発を続けることで、森林や里山、農地等では生物多様性が低下し、在来種の減少、外来種の増加が進行。

Q6.気候変動や外来種が、高松市の環境に与える影響について、どのような懸念事項がありますか。

①在来種の減少、消滅の懸念がある。

<A 団体>

②特に希少動植物の減少、消滅が危惧されるとともに、危険な外来生物の生息・生育の拡大は生活環境にも大きな問題となる。

<B 団体>

①猛暑や豪雨による生息環境の変化、外来種による在来種の駆逐が大きな懸念であると思う。在来種の激減や最悪の場合絶滅も今後考えられるのではないかと思う。

<C 団体>

①温暖化の影響で、熱帯植物が増えてくると思われます。また、山の木々を利用しなくなったことで、竹林拡大や放置林が増え、ここ数年ではナラ枯れが多くみられるようになりました。今後、人が手を入れない森林では植生遷移が進み、従来の生物の生息環境が変わり、植物・昆虫・鳥・哺乳類などの種数に変化が起こると思われます。

②また、温暖化に適した外来種が侵入することで、外来種の増加や在来種の減少、外来種と在来種の混雑により、種の変化も起こる可能性が懸念されます。

<D 団体>

①更に種の減少が加速される。

ヒアリング結果のまとめ

<気候変動や外来種が与える影響>

- ・希少動植物の減少、消滅が危惧。
- ・猛暑や豪雨など気候変動による生息環境の変化（熱帯植物の増加等）。
- ・外来種による在来種の駆逐。在来種との混雑による種の変化の可能性。
- ・危険な外来生物の生息・生育地の拡大が人間生活にとっても大きな問題。
- ・竹林拡大や放置林の増加により植生が遷移。

Q7.貴団体の活動内容のうち、生物多様性の保全に効果的だと感じる活動はありますか。

<A 団体> ①環境省の自然共生サイトの認定に伴い活動計画に沿った生物多様性の価値に配慮した管理活動の実施と継続した動植物の情報蓄積。

<B 団体> ①海や川のゴミ拾い活動が生物多様性の保全に効果的だと感じている。水辺のゴミは、生き物の誤食や生息環境の悪化につながるが、ゴミ拾いによってそれらを防ぐことができる。海ゴミ・川ゴミ拾い活動で海や川に住む生物を守ること。

<C 団体> ①森林整備（里山保全活動）、自然体験の場の提供を含む環境教育活動、里山資源の活用、里山に関わる人材の育成など

<D 団体> ①ビオトープの整備、維持管理活動
②遊休耕作地の有効活用、環境保全活動

ヒアリング結果のまとめ

<生物多様性の保全に効果的な活動>

- ・環境省の自然共生サイトの認定に伴った活動計画。
- ・生物多様性の価値に配慮した管理活動の実施と継続した動植物の情報蓄積。
- ・海ゴミ・川ゴミのゴミ拾い活動。
- ・森林整備（里山保全活動）。
- ・環境教育活動（自然体験の場の提供を含む）。
- ・里山資源の活用。
- ・里山に関わる人材の育成。
- ・ビオトープの整備、維持管理活動。
- ・遊休耕作地の有効活用、環境保全活動。

Q8.地域住民や行政が取り組むべき優先事項は何だと思いますか。

<A 団体> ①行政による地域住民への生物多様性保全の重要性などに対する理解を深めるための普及啓発活動を実施するとともに、地域住民や企業、団体等による積極的な環境保全活動への協力、参加が重要であると考えます。

<B 団体> ①生息環境の保全と市民への環境教育の充実が最優先だと考える。
②一人一人がゴミを拾うなど自分の周りの身近な所から綺麗にすること。

<C 団体> ①行政が、自然環境の現状が分かるデータや情報をとりまとめ、その情報に基づく、今後の方針や具体的な活動を示し、市民の保全活動を促すこと。生物多様性の重要性や意義、高松市独自の自然環境についての学びの場の提供や情報発信を行うこと（各ニーズやレベルに応じた学びと体験の機会が常に準備され、容易にその情報を得られる環境が確保されている事、例えば保全を行うとどのような利点があるのか、各行為がどのように影響するのかなど）。生物多様性保全のための都市計画の策定と用途指定等規制を行うことが必要だと考えます。

②行政・企業・市民が協力し、現状の把握をすることが必要だと思います。大勢を巻き込み調査し、現状を把握することで、市民全体への周知や保全活動につながるのではないかと考えます。

<D 団体> ①森林、農地の保全、管理
②河川、水路、ため池の管理、保全

ヒアリング結果のまとめ

<地域住民や行政が優先的に取り組む事項>

- ・行政による生物多様性保全の重要性の理解を深めるための啓発活動。
- ・生活環境の保全。
- ・市民への環境教育の充実。
- ・行政が自然環境の現状が分かるデータをまとめ、具体案を示すことによる市民の保全活動を促進。
- ・行政による学びの場の提供や情報発信。
- ・行政・企業・市民の協力。

Q9.市民に活動に参加してもらうための、効果的な仕掛けがあれば教えてください。

- ①20年ぐらい前の感覚では、60歳前後の人（会社を退職した人等）が環境系の活動に多く参加してくれていたと思うが、最近では、60代、70代の人でも仕事をしている関係もあるのか、なかなか活動に参加してくれないと感じている。
- ②既存の活動団体も高齢化が進み、後継者不足で活動を止める団体も出てきており、市民の活動参加促進を活動団体に求めることは難しくなっていると考える。
- ③どこまで行政がかかわるのかは判断が難しいところだが、行政がかかわることにより一定の信頼性を持たせ、参加者が満足感が得られるような生物多様性保全に関する知識・技能等が習得できる講座や体験イベントを仕事をしている人が参加しやすい日程で開催し、活動への参加者・支援者等のすそ野を広くすることが必要ではないか。

=====

- ①スタンプラリー形式の自然観察イベントや、SNSと連動した情報発信など、楽しさと参加しやすさを重視した仕掛けが効果的だと思う。
- ②SNSによる生物多様性に関する情報発信を行い、興味・関心を持ってもらうこと。

=====

<C 団体> 無回答

=====

- <D 団体> ①行政支援による環境学習会の開催

ヒアリング結果のまとめ

- <市民が活動するための効果的な仕掛け>
- ・行政が関わることによる活動の信頼性をもたせたイベント。
 - ・参加者の満足度に繋がる講座やイベント。
 - ・活動への参加者、支援者等のすそ野を広くすること。
 - ・楽しさと参加しやすさを重視した仕掛け。
 - ・SNSによる情報発信。
 - ・行政支援による環境学習会の開催。

1.2.4 生物保全団体へのヒアリングからみえた高松市の現状・課題

1) 高松市の環境

高松市は南部の山から瀬戸内海まで、里山、都市部へと河川が流れ、多様な動植物が生息できる環境が整っています。また、都市部の公園や緑地など、身近に様々な自然環境を有し、多様な生態系に富んだ環境である。また、高松市ならではの環境、生態系としてため池における水生昆虫や魚類、鳥類、植物などが挙げられます。

2) 高松市の現状と課題

(1) 生態系の変化

生活様式の変化や担い手の減少による、森林や竹林の放置、荒廃が進み、里山の植生・生物多様性が変化してきています。

また、人間活動（都市開発、大型太陽光発電の設置など）や気候変動により、生物種の生態が変化、外来種の確認数・生息域の拡大や在来種との種の混雑・交配も懸念されます。

外来種の中には、人の生命または身体に関わる被害のあるセアカコケグモの確認が増加していることも喫緊の課題としてあげられます。

(2) 市民の意識

生物多様性という言葉はよく聞かれるようになっていますが、実際に保全活動を実施している例は少なく、市民の生物多様性の現状への理解度は高くないと考えられます。これは、高松市の環境について情報を得る機会が少なく、生物多様性保全のための具体的な行動が不明瞭であることが課題であると考えられます。

3) ヒアリングを踏まえた高松市としての取組方針の案

(1) 自然環境の保全

生活様式の変化により進行している、放置森林や竹林、ため池の管理・保全を実施し、里山の環境保全を推進、生物多様性の保全に繋げ、高松市特有の生物種・生態系を維持します。

(2) 生物多様性についての学びの提供

市民の理解度を深めるため、年齢や立場、状況に沿った「学びの場」（環境学習会やふれあいイベント、保全活動など）を提供し、生物多様性の知識を持つ人材の育成に努めます。

行政が高松市の自然環境の状況を整理、市民に情報を提供することで、市民の意識の醸成を図ります。

(3) 行政による保全活動の支援

生物保全団体が実施する活動やイベントを積極的に支援することで、団体の活動を活発にし、多方面からの自然環境保全、生物多様性に関する市民の意識の醸成に繋がります。